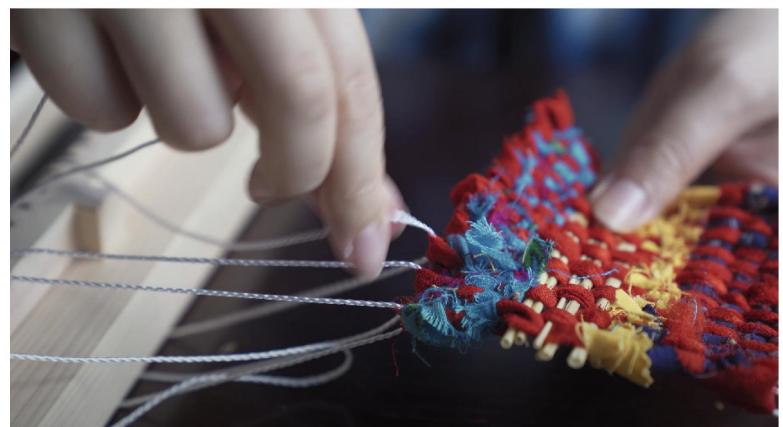


思い出Eco織り機



開発・販売元
一般社団法人わざどころPON

〒629-0141 京都府南丹市八木町八木鹿草76-1
<https://wazappon.link>

布も、森も、技術も
守り、伝える
思い出Eco織り機

身の回りにあふれている、布

服は着古したら捨てるだけだと思っていませんか

日本で年間100トンともいわれる、着古した服などの古い布を

織り直してまた使えるようにできる織り機です

今まで織り機というと、機からおろす時に、どうしても捨てる糸が発生していました。
この織り機では、特許取得の新製法により、四方耳で無駄な糸を出さず、最後まで素材を生かせます。

通常の織り機は、機からおろす時に、布がぱらぱらにならないよう、縦糸を結ぶ必要があります。
しかし、この織り機は、糸を結ぶ必要がありません。

織り上がったら、簡単にはずすことができます。

しかも、組み立てたり外したりするのも簡単で、従来の座って織る織り機のように、場所をとりません。

この形が実現したのは、日本に古くから伝わる、宮大工の技を採用しているから。

素材も、神社などの建築に使われる、京都産ヒノキの端材を使っています。

京都のヒノキは古くから建築材料にするために育てられてきましたが、

今は暮らしの変化で使う人が減り、森や川が荒れる一因にもなっています。

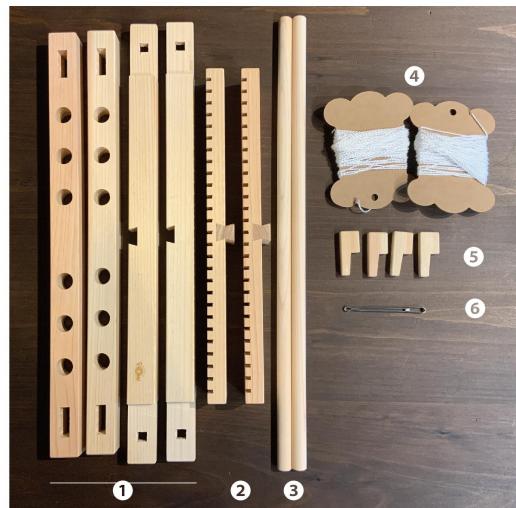
持続可能な社会づくりに想いをはせながら、

思い入れのある古い布を、暮らしのなかで使えるものに生まれ変わらせられる

それが、思い出Eco織り機です。



基本セット



① 織り棒一式(上下棒2本、左右棒2本)

② 簾板

③ 丸棒

④ おさ糸

⑤ 杭

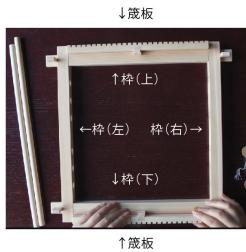
⑥ 糸通し

織り方の動画や、講習会の日程など
特設WEBサイトで紹介しています。
<https://e-ori.kanappon.work>



1_織り機の組み立て

枠上下左右の4本で枠を作る。両端に四角い穴が空いている棒が上下の枠、丸い穴が空いている棒が左右の枠。4つを組み合わせたら、上下に箒板(おさいた)を入れる。組み立てたら4隅に穴が出てくるので、そこに杭をそれぞれ挿し込み、枠を固定する。これで枠が完成する。



2_箒系(おさいと:縦糸を支える糸)をかける

枠内で織りたい布の大きさ※2を決める。

縦の幅は、横の穴に2本の棒を入れる位置で決める。(丸棒を使用しないと最大幅の織物になる)横の幅は箒系をかける幅で決める。

箒系の端をひっかけられるように結び、上の杭にひっかけて、箒系をかけ始める。作りたい幅分、箒板の溝に引っかかるように糸をかけていく。(箒系はたるまないようにする。溝1つに糸1本ずつ、溝1つとばしで糸1本、溝1つに糸2つでもOK。箒系が多いと、目が詰まった布になり、少ないと、目があらいたい布になる。縦糸が太い時は箒系の幅を広げると織りやすい。)

上下の箒板に同じ幅で箒系をかけていき、最後は杭に挟んで糸を止める。

これで織り機のセットが完了。

※2 枠より大きい布を作りたい時は織りあがった後に継ぎ足す。現在は最大27センチ角が織れる。

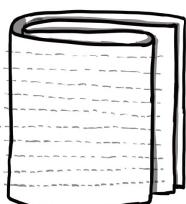
布でなく、通常の糸(毛糸など)を使う場合はこの工程は省かれる。

●_糸(裂き布)の準備

布を糸状にして織る場合、端を少し残して蛇腹状に折り、ハサミを入れ、布をリボン状に裂くと、早く糸の準備ができる。紙用の裁断機を使っても良い。

布の幅が太いと分厚く織れ、幅が細いと薄く織れる。

布が毛羽立って織りづらいもの場合は、ねじって依りをかけておくなどすると織りやすくなる。



3_経糸(たていと)をかける

箒糸の真ん中に縦糸の中心をひっかける。糸の端を箒糸の中心から左右に向かって、順番にかけていく。たるんだりねじれたりしないように気を付ける。

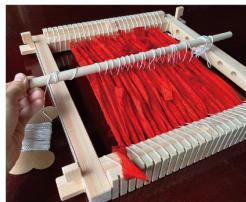
縦糸の端は両方も3cm以上残しておく。糸が足りなくなったら新しい糸を結んだり、輪ゴム結びをしたりして足す。



縒糸を通すときに1本ずつとらないといけない手間が省ける。

●_大きい布を織りたい場合(糸綜続)

糸をかけたあと、棒を織り機(枠)の縦中心に置く。棒の右端に糸をくくりつけ、糸で右から1本目の経糸をすくい、棒に糸をかける。3本目の経糸をすくい、ぼうに糸をかける、5本目…と左の端まで繰り返す。



4_緒糸(よこいと)を通す

緒糸も、経糸と同様に3センチくらい残して織り始める。手で通していくてもOK。付属のひも通し※4を使うとやりやすい。※4ひも通しの使い方…ついているリングを上にあげて、布を挟み、リングをおろして固定する。



箒糸にかかっている経糸の右側から順に糸をとっていく。向かって右から1本目の糸をとり、2本目の糸をとばして、3本目をとる、4本目をとばし、5本目をとる、といったように、経糸2本を1セットとし、『右とる左とらない』→『右とる左とらない』→…をくりかえす。左の端まで糸を通したら、緒糸はできる限り織り機の下のほうへ詰める。(渾まできっちり詰めるほうがきれいに織れる)これを1段目とする。

次は進行方向逆向きに糸を通してく。経糸2本を1セットとし、1段目とは逆側の糸をとっていく。『左とる右とらない』→『左とる右とらない』→…をくりかえし、右の端まで糸を通す。(平織りという)これをくりかえして糸を通してく。3段目を通すときに、経糸をかけたときに残した糸の端を緒糸と一緒に織り込む。

糸がなくなったら先に通していた糸と3cmほど重なるように新しい糸を通し、同じ段に織り込んでいく。

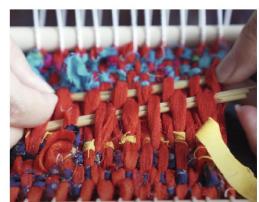
4段目まで織ると下の端が安定する。

ここまで織っていた糸はそのままにして織り機を上下反転させ、先ほど上になっていた糸を下にして、1段、2段…と4段目まで織る。

上下ともに4段目まで織いたら、糸が上下の真ん中あたりで終わるように織っていく。この部分には、藁など布ではないものの、弱い糸を織ったり、模様が出るように2本飛ばしなどしながら織ったりしてもよい。



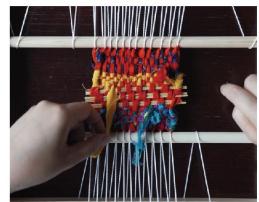
フサのようにくくりつけていても楽しい



5_仕上げ

緒糸が入らなくなるまで織ったら、最後の仕上げをする。緒糸の端も真ん中にくるように織っていき※5、最後は余分な糸を切る。

※5 緒糸の端が外に出ているとほつれてしまう。



6_箒糸と織り機を外す

4つある杭をすべて抜く。箒糸の端をほどき、枠を取る。箒糸を織った布から引き抜いていく。

経糸を切って端を結ぶ必要はなく、糸を抜いて完成。

